

活用効果評価結果

公開版

平成28年度

近畿地方整備局 新技術活用評価会議

NEITS 情報	開発目標	耐久性の向上、作業環境の向上、品質の向上																								
	新技術登録番号	TH-030026-VE	区分	工法	有用な技術の位置づけ	活用促進技術																				
	分類	橋梁上部工 - 橋梁塗装工(新設)																								
	新技術名	常温金属溶射システム (MS工法) 〔副題:鋼部材に対し亜鉛・アルミ地金を用い常温金属溶射を行い、防錆・防食する〕																								
	比較する従来技術(従来工法)	フレーム溶射																								
活用効果評価	新技術の概要及び特徴	腐食しやすい鋼構造物に対して、重防食を目的とした金属溶射工法で、従来の金属溶射と異なり、優れた密着性を発揮する専用の粗面形成材を塗布して素地を強制的に粗面化し、また、防錆効果の高い亜鉛・アルミ合金を軽量小型の溶射機を用い常温で溶射する。																								
	所見	<p>参考の評価基準に基づき「従来技術より優れる」と位置づけされる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 亜鉛・アルミニウム合金皮膜形成可能により、亜鉛単独、亜鉛・アルミ合金皮膜よりも高度な防錆効果が得られるため、向上していると思われる。 本工法は溶射が常温であることから、危険性が減少する。 吹付機材がコンパクト化されているため、小回りが利き、狭い場所での施工となったが、問題なく作業完了できた。 																								
	次回以降の評価に対する視点と評価の必要性	実施要領における継続調査の要件にあてはまらないため、次回以降の評価は不要とし、情報識別記号「-VE」とする。															<p>項目の平均(点)と従来技術(従来工法)(点)の比較</p>									
	留意事項	-																								
	活用効果調査表における改良点及び要望	-																								
参考	対象工事	1	上部工工事	(従来技術)	フレーム溶射	施工者希望型	H26																			
		2	上部工工事	(従来技術)	フレーム溶射	施工者希望型	H26																			
		3	鋼上部工工事	(従来技術)	フレーム溶射	施工者希望型	H26																			
		4	上部工製作輸送架設工事	(従来技術)	フレーム溶射	施工者希望型	H26																			
		5	上部工工事	(従来技術)	フレーム溶射	施工者希望型	H26																			
		6	塗装工事	(従来技術)	フレーム溶射	施工者希望型	H26																			
		7	塗装工事	(従来技術)	フレーム溶射	施工者希望型	H26																			
		8	橋梁塗装工事	(従来技術)	フレーム溶射	発注者指定型	H26																			
		9	構造物補修工事	(従来技術)	フレーム溶射	発注者指定型	H26																			
		10	橋梁塗装工事	(従来技術)	フレーム溶射	発注者指定型	H26																			
		11	橋梁補修工事	(従来技術)	フレーム溶射	施工者希望型	H26																			
		12	高架橋補修工事	(従来技術)	フレーム溶射	発注者指定型	H26																			
		13	橋梁塗装工事	(従来技術)	フレーム溶射	施工者希望型	H27																			
		14	橋梁塗装工事	(従来技術)	フレーム溶射	施工者希望型	H27																			
		15	橋梁補強工事	(従来技術)	フレーム溶射	施工者希望型	H27																			
		16	上部工工事	(従来技術)	金属溶射(JIS工法)との比較	施工者希望型	H27																			
		17	放流設備製作据付工事	(従来技術)	フレーム溶射	施工者希望型	H27																			
		18	橋梁補修工事	(従来技術)	金属溶射(フレーム溶射)	施工者希望型	H27																			
		19	構造物補修工事	(従来技術)	フレーム溶射	発注者指定型	H28																			
		20	橋梁補修工事	(従来技術)	フレーム溶射	発注者指定型	H28																			
	活用効果調査結果	ケース番号及び年度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	項目の平均(点)	従来技術(従来工法)(点)		
項目		H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H28	H28				
施工時評価		経済性	B	C	B	B	B	B	C	C	B	C	B	C	B	B	B	B	B	C	B	B	B	C		
		工程	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	C	B	C	C	C	B	C	C	C	C	C	C		
		品質・出来形	B	A	B	A	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		
		安全性	B	C	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	C	C	B	B	B	C		
		施工性	B	C	C	B	C	B	B	C	B	B	B	C	B	B	B	B	B	C	B	B	B	C		
		環境	B	C	C	B	C	B	C	C	B	C	B	C	B	B	C	B	C	C	C	C	C	C		
その他																										
総合評価点		B	C	C	B	C	B	C	C	B	B	B	C	B	B	B	B	C	C	B	B	B	C			
今後、当該技術を活用出来る工事に活用したいか	今後是非活用したい	44%			31%			17%			0%			各項目における判定												
	活用を検討したい											技術の改良を強く望む														
	場合によっては活用することもある											A 従来技術より極めて優れる														
	技術の改良を強く望む											B 従来技術より優れる														
H26.4以降の活用効果調査表18件にて判定(旧調査表2件は判定不可)																						C 従来技術と同等		D 従来技術より劣る		
追跡調査の必要性																						追跡調査				